

植生劣化の事例 天城山 万二郎～万三郎岳9/11



林床植生貧化・土壤侵食



ギャップには次世代の木がない





植生劣化の事例

表富士標高1800～
1400m付近
樹皮食いの多発

カラマツ
オオシラビソ
ウラジロモミ
ナナカマド







マルハナバチの仲間

コマルハナバチ (左: メス=働き蜂) 右: オス



4月～7月 平地～山地 10-20 mm
メス=胸・腹が黒, 尾が黄

オオマルハナバチ (左: メス=働き蜂) 右: オス



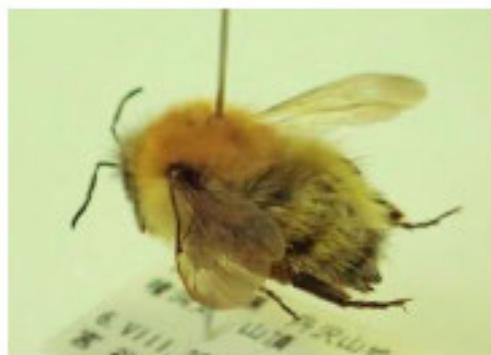
5月～9月 やや山地性 (標高 400 m 以上) 12-22 mm
メス=首と腹に白筋, 尾が黄

トラマルハナバチ (メス)



5月～10月 平地～山地 11-18 mm
胸が茶, 尾が黒

ミヤママルハナバチ (メス)



5月～9月 山地 10-18 mm
胸が黄, 腹・尾が白

参考: クマバチ (メス)



4月～10月 23 mm
胸が茶, 腹が黒

火打石岳・稜線(広葉樹本数調整伐地)



明星ヶ岳東面（広葉樹本数調整伐地）



舟原壯齡林林床



アオキ除伐後



前年に同じ整備方法の水源協定林



生物の多様性・水源林機能を最大限発揮

1 溪畔林など、環境林の創生

→ 生物多様性、豊かな生態系の回復

2 箱根外輪山にブナ林の回廊を

→ 高標高の本来の植生の再生

(小田原山盛の会はブナの苗を作作成中。)

3 シカ害に先手を打つ

→ 森林施業すべてに不可欠 林業被害をなくす

